

台湾の主要経済指標の動向

2025年6月 日本台湾交流協会

<ポイント>

- ◆5月分の景気対策信号は、伝統産業(電子製品等以外)に対する需要の低迷や自動車の買い控えの影響により、卸売業及び小売業が低調となったことにより、先月から2ポイント減少の31ポイントと4か月連続の下落、「景気過熱」圏から「景気安定」圏に移行。
- ◆景気の先行きについては、AI関連製品が輸出を支え、半導体分野が投資を牽引し、安定した雇用市場や給与上昇、株式配当金の増加等が民間消費を支える見込み。一方で、米国の関税政策の動向等による不確実性の高まりが経済に与える影響に注意が必要。

1) 国内総生産(GDP) 『2025年第1四半期の実質GDP成長率(速報値)は前年同期比+5.48%(4月時点の予測値から+0.11%pt上方修正)。通年の成長率は同+3.10%、下半期は同+1.00%に鈍化』

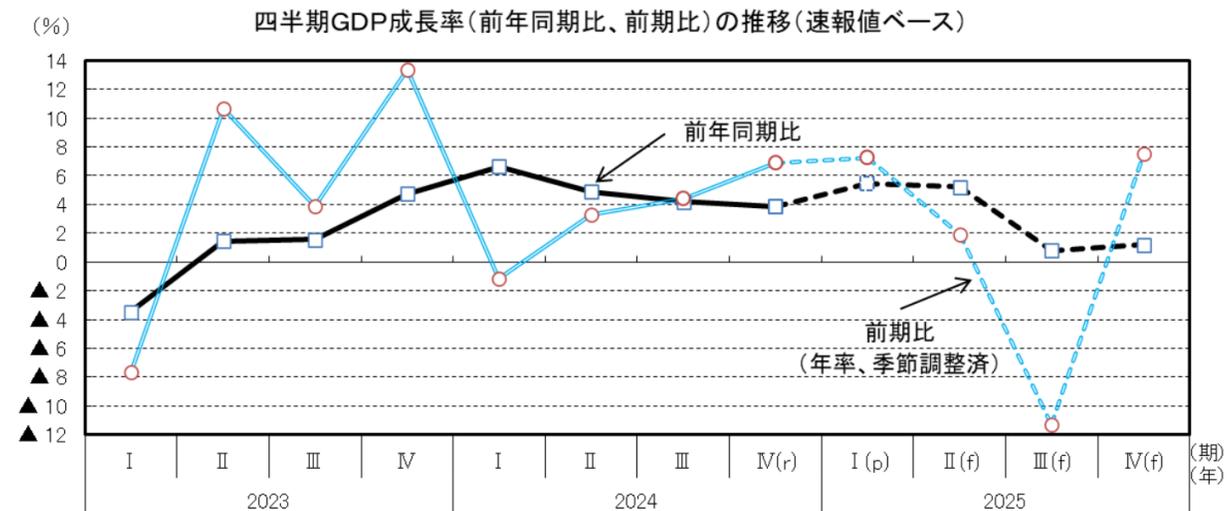
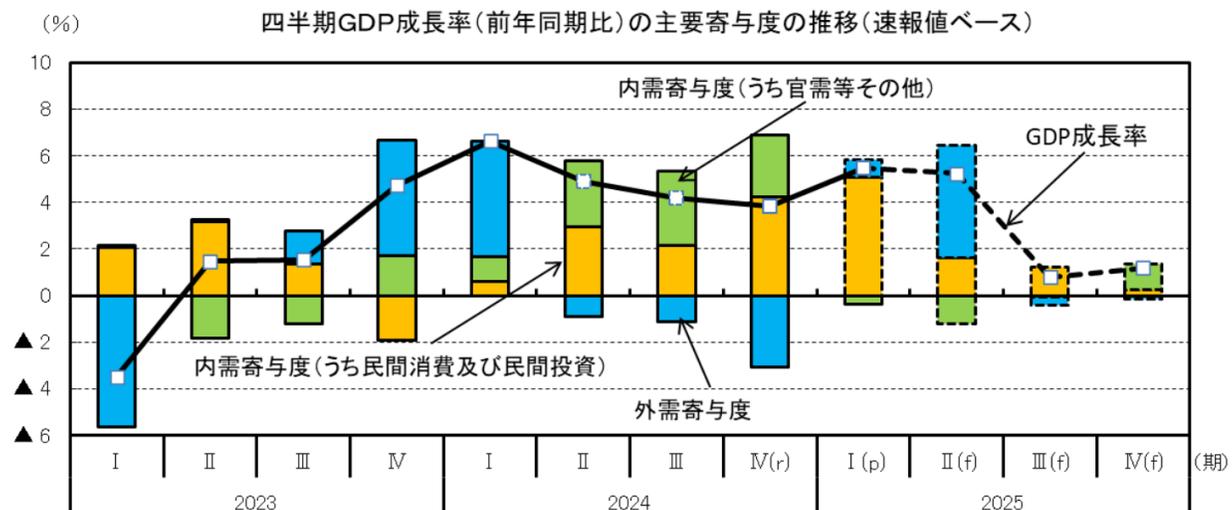
2025年第1四半期における実質GDP成長率(速報値)は、対前年同期比+5.48%(4月時点の予想値から+0.11%pt上方修正)となった。

外需面では、輸出は、AI関連製品に対する需要が旺盛であったことに加え、米国関税措置前の駆け込み需要等により同+20.29%(経済成長寄与度同+12.53%pt)、輸入は輸出及び投資に牽引された資本整備装置の購入等の増加により同+24.43%(経済成長寄与度同▲11.76%pt)となった。外需全体の経済成長寄与度は+0.77%pt。

内需面では、民間消費は、春節の影響により飲食、レジャー、娯楽関連サービスの消費が増加したものの、昨年基準値が高かったことから成長は鈍化し、同+1.36%となった(経済成長寄与度同+0.63%pt)、資本形成は、AI等の新興技術に対する力強い需要に伴う投資の拡大により、同+15.98%(経済成長寄与度同+4.01%pt)となった。そのうち、民間投資は同+20.77%(経済成長寄与度同+4.43%pt)。内需全体では同+5.46%(経済成長寄与度同+4.71%pt)となった。

2025年通年では、同+3.10%(2月時点の予想値から▲0.04%pt下方修正)となる見込み。本年下半期は輸出の勢いが鈍化し、また民間投資は不動産市場の鈍化や貿易の不確実性等の影響で低調となると見込まれることから同+1.00%の成長にとどまる見込み。

| (%、速報値ベース) | 2021年 | 2022年 | 2023年 | 2024年 | 2024年Q2 | 2024年Q3 | 2024年Q4 | 2025年Q1 |
|-----------------|--------|--------|--------|--------|---------|---------|---------|---------|
| 実質GDP成長率(前年同期比) | 6.72 | 2.68 | 1.12 | 4.84 | 4.89 | 4.21 | 3.82 | 5.48 |
| 内需寄与度 | 5.06 | 3.44 | 0.84 | 5.00 | 5.79 | 5.34 | 6.90 | 4.71 |
| 民間消費寄与度 | ▲0.03 | 1.81 | 3.62 | 1.32 | 1.44 | 0.89 | 1.00 | 0.63 |
| 民間投資寄与度 | 3.67 | 1.79 | ▲2.49 | 1.22 | 1.50 | 1.28 | 3.22 | 4.43 |
| 官需等その他寄与度 | 1.42 | ▲0.16 | ▲0.29 | 2.46 | 2.85 | 3.17 | 2.68 | ▲0.35 |
| 外需寄与度 | 1.66 | ▲0.76 | 0.28 | ▲0.17 | ▲0.90 | ▲1.14 | ▲3.07 | 0.77 |
| 輸出寄与度 | 8.38 | 1.71 | ▲2.75 | 5.37 | 4.73 | 5.57 | 5.41 | 12.53 |
| 実質GDP成長率(前期比年率) | - | - | - | - | 3.32 | 4.41 | 6.89 | 7.25 |
| 1人当たりGDP(米ドル) | 33,111 | 32,827 | 32,442 | 34,040 | 8,229 | 8,514 | 8,999 | 8,643 |



(注)r: 修正値、p: 速報値、f: 予測値

(出所) 行政院主計總處

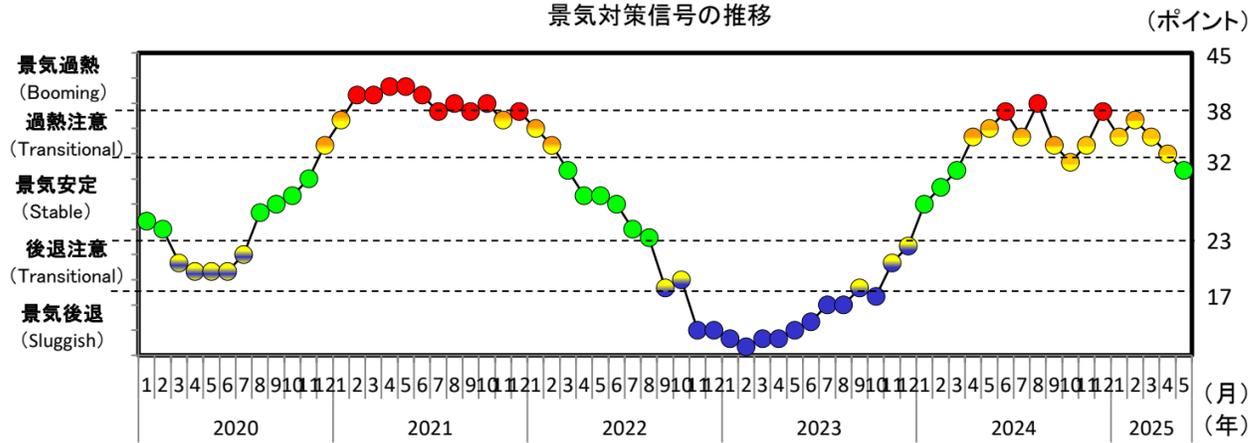
2) 景気対策信号

『伝統産業の需要の低迷や自動車の買い控え等で卸売業及び小売業が低迷、指標は4か月連続の下落』

5月分の景気対策信号は、先月から2ポイント減少の31ポイントと4か月連続の下落となり、「過熱注意」圏から「景気安定」圏に移行した。伝統産業(電子製品等以外)の需要の低迷や自動車の買い控えの影響により、卸売業及び小売・飲食業が低調となったことが等が原因。域内経済は安定してるが、今後の変化に注意が必要。
 本年下半期の展望に関しては、国家発展委員会は、「主要なクラウドサービス企業の資本支出増加やAI等の新興技術の急速な発展が輸出の勢いを引き続き支える見込み。投資面では、半導体事業者がAI需要に応じ、積極的に先端的な製造能力を拡充すること等が投資の勢いを刺激する見込み。消費面では安定した雇用市場や給与上昇、配当金の増加等が民間消費を支える見込み。一方で、米国の関税政策の動向や各国の交渉結果、中東及びウクライナ等の地政学的状況等により世界経済の成長とインフレに対する不確実性が高まっていくことから、台湾経済への影響に注意する必要がある」としている。

| | 2024年10月 | 2024年11月 | 2024年12月 | 2025年1月 | 2025年2月 | 2025年3月 | 2025年4月 | 2025年5月 |
|--------------|----------|----------|----------|----------|----------|----------|----------|----------|
| 景気対策信号(判断点数) | 過熱注意(32) | 過熱注意(34) | 景気過熱(38) | 過熱注意(35) | 過熱注意(37) | 過熱注意(35) | 過熱注意(33) | 景気安定(31) |

出所: 国家発展委員会
 (注)「景気対策信号」は、生産・雇用・消費・貿易・株価等の主要な経済指標を指数化したものであり、景気のトレンドを示す目安とされる。



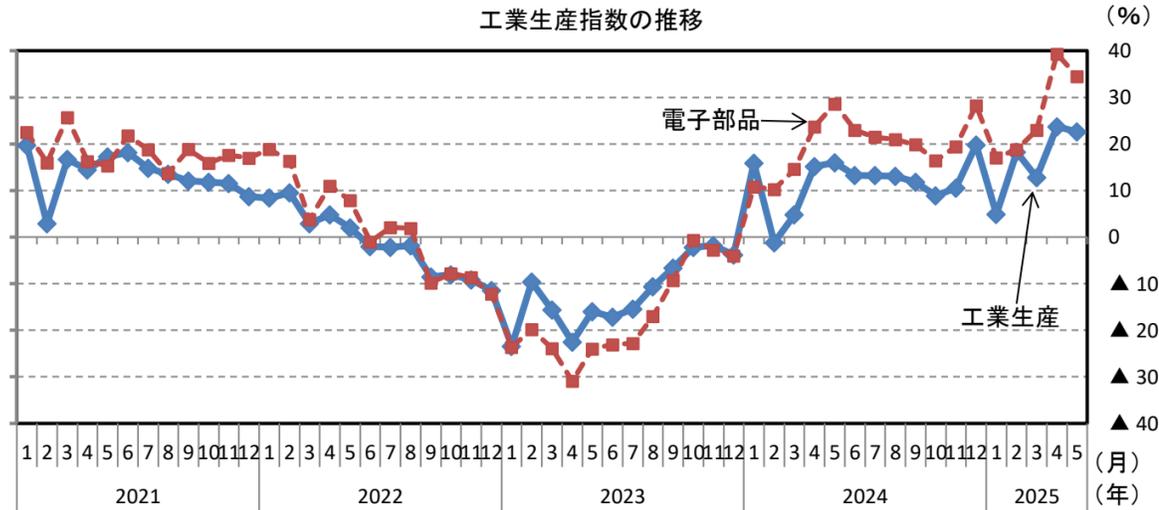
3) 工業生産指数

『5月の工業生産指数は、電子部品の好調により、前年同期比+22.60%となった』

5月の工業生産指数は前年同月比+22.60%となった。工業生産の大半(シェア約9割)を占める製造業は、AI等に対する力強い需要が継続し、加えて、米国の相互関税措置の一部延期により製品購入の勢いが引き続き堅調であった一方、伝統産業が減速し、増加分を一部相殺したことから前年同月比+24.00%となった。このうち、主要品目である電子部品(シェア約5割)は+34.53%の増加となった。
 経済部は、今後について、「国際貿易における保護措置や地政学的な対立等の不確実性が引き続き世界経済の成長を抑制するが、AI等の新興技術に対する需要は堅調で、高性能な半導体やサーバー等の生産は引き続き高水準で推移すると見込まれており、製造業の安定的な成長を支える」との見解を示している。

| (%、前年同期比) | 2021年 | 2022年 | 2023年 | 2024年 | 2025年2月 | 2025年3月 | 2025年4月 | 2025年5月 |
|-----------|-------|-------|--------|-------|---------|---------|---------|---------|
| 全体 | 14.73 | ▲1.81 | ▲12.42 | 11.77 | 18.21 | 12.76 | 23.71 | 22.60 |
| うち製造業 | 15.58 | ▲1.96 | ▲12.80 | 12.26 | 19.29 | 13.61 | 25.18 | 24.00 |
| うち電子部品 | 21.02 | 0.82 | ▲17.41 | 19.76 | 18.79 | 22.92 | 39.34 | 34.53 |

出所: 経済部統計処



4) 卸売・小売

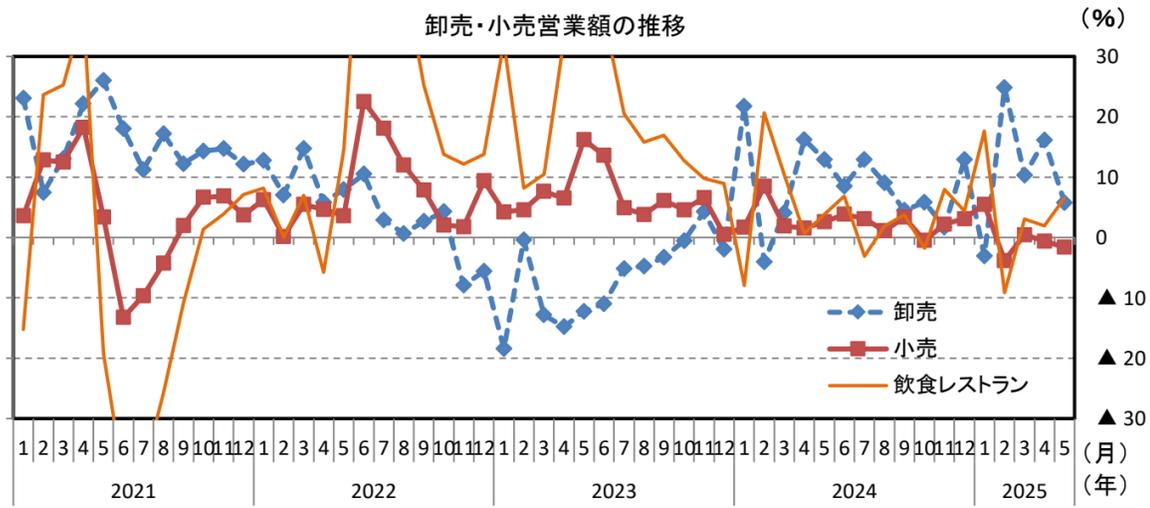
飲食レストラン業動態

『小売業は、経済の不確実性の高まりによる消費者心理の悪化と自動車販売の減少により▲1.63%』

5月の卸売業は、AIやクラウドサービスの需要が旺盛で一部の顧客が米国相互関税措置の一時延期の機会に積極的に在庫を補填したことから等からAI関連サーバーや半導体等の出荷が好調であった一方、輸入自動車数の減少等により一部増加分を相殺し、前年同月比+5.76%の増加、売上額は1兆1,408億元となった。
 5月の小売業は、経済の不確実性が消費者心理に影響を及ぼしており、加えて、自動車販売は一部車種のモデルチェンジ時期のため輸入車数が減少し、昨年基準値も高かったことから前年同期比▲18.0%となり、小売業全体で前年同月比▲1.63%の減少、売上額は3,949億元となった。
 5月の飲食・レストラン業は母親節や端午節の連休の効果等により、前年同期比+6.54%の増加となり、売上額は902億元となった。
 経済部は、6月の見通しについて、「卸売業はAI関連需要の高まりの影響により売上額は前年同期比で引き続き増加する見通し、小売業は、年中慶の販売促進活動が民間消費を刺激するものの、景気の不確実性により消費活動が保守的となることや昨年基準値が高いことから売上額の増加が抑制されるおそれがある、飲食レストラン業は卒業シーズンの飲食機会の増加や夏日により飲料品需要が高まることなどから、プラス成長を維持する見込み」との見解を示している。

| (%、前年同期比) | 2021年 | 2022年 | 2023年 | 2024年 | 2025年2月 | 2025年3月 | 2025年4月 | 2025年5月 |
|-----------|-------|-------|-------|-------|---------|---------|---------|---------|
| 卸売業 | 15.43 | 5.42 | ▲6.88 | 8.77 | 24.83 | 10.31 | 16.12 | 5.76 |
| 小売業 | 4.09 | 8.25 | 6.20 | 2.63 | ▲3.84 | 0.43 | ▲0.58 | ▲1.63 |
| 飲食レストラン業 | ▲6.82 | 19.08 | 20.39 | 3.58 | ▲9.16 | 3.04 | 1.96 | 6.54 |

出所: 経済部統計処



5) 物価動向

『エネルギー価格の下落等により、生産者物価指数は前年同期比▲4.30%』

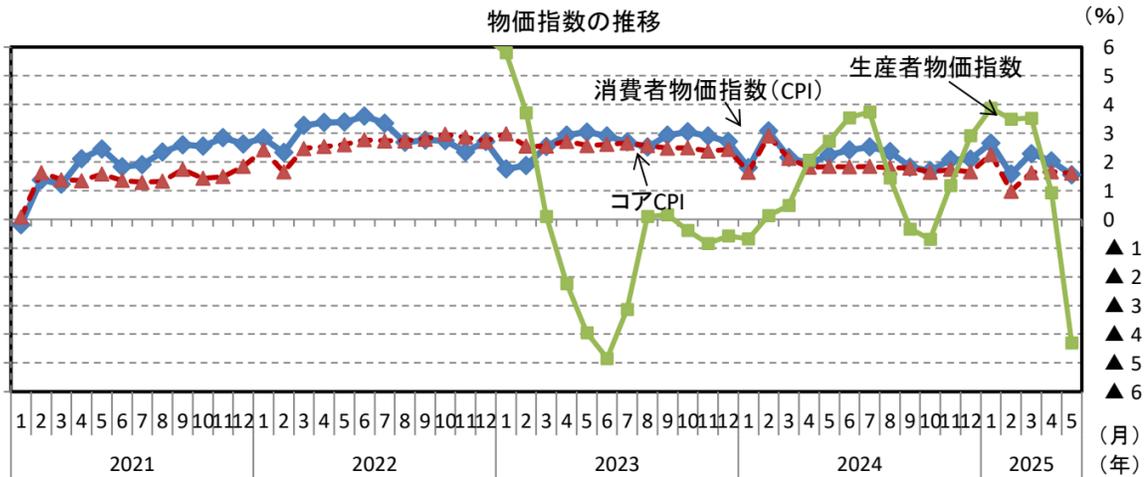
5月の消費者物価指数(CPI)は、果物、肉類、外食費、家賃等が上昇した一方、野菜、卵、燃料等が下落したことにより、前年同月比+1.55%となった。個別項目では、果物+18.56%、肉+4.80%、外食費+3.50%、家賃+2.28%の増加、野菜▲10.92%、卵▲13.37%、燃料▲8.15%となった。

また、青果類及びエネルギー指数を控除したコア物価は、前年同月比+1.61%となった。

生産者物価指数は石油・石炭製品が▲12.37%、化学製品が▲10.49%となった一方、ガスは+16.07%、電気が+6.91%となったことから全体で前年同期比▲4.30%となった。

| (%、前年同期比) | 2021年 | 2022年 | 2023年 | 2024年 | 2025年2月 | 2025年3月 | 2025年4月 | 2025年5月 |
|-----------|-------|-------|-------|-------|---------|---------|---------|---------|
| 消費者物価 | 1.97 | 2.95 | 2.49 | 2.18 | 1.58 | 2.29 | 2.03 | 1.55 |
| コア物価 | 1.33 | 2.61 | 2.58 | 1.88 | 0.98 | 1.63 | 1.66 | 1.61 |
| 生産者物価 | - | 10.51 | ▲0.57 | 1.36 | 3.49 | 3.53 | 0.93 | ▲4.30 |

出所: 行政院主計処



※計数は公表時点の計数

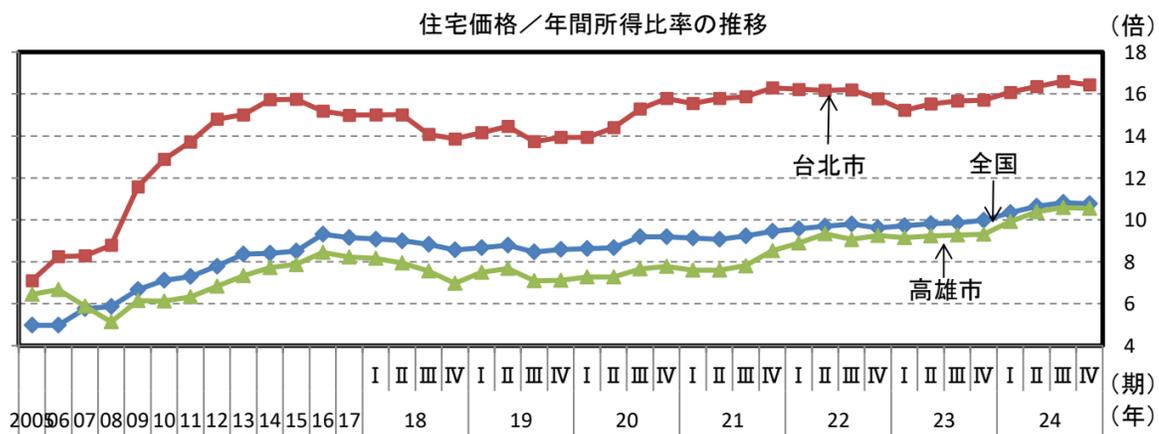
6) 住宅価格

『住宅価格/年間所得比は2年ぶりに対前期比で減少』

| 住宅価格指数(16年通年=100) | 2020年4Q | 2021年4Q | 2022年4Q | 2023年4Q | 2024年1Q | 2024年2Q | 2024年3Q | 2024年4Q |
|-------------------|---------|---------|---------|---------|---------|---------|---------|---------|
| 全国 | 108.17 | 117.50 | 127.51 | 136.20 | 140.82 | 146.48 | 149.69 | 150.98 |
| 台北市 | 103.65 | 109.44 | 113.08 | 117.54 | 119.56 | 123.11 | 123.82 | 125.37 |
| 高雄市 | 107.58 | 118.00 | 131.59 | 137.26 | 140.68 | 149.49 | 153.13 | 156.12 |

| 住宅価格/年間所得比率 | 2020年4Q | 2021年4Q | 2022年4Q | 2023年4Q | 2024年1Q | 2024年2Q | 2024年3Q | 2024年4Q |
|-------------|---------|---------|---------|---------|---------|---------|---------|---------|
| 全国 | 9.20 | 9.46 | 9.61 | 9.97 | 10.35 | 10.65 | 10.82 | 10.76 |
| 台北市 | 15.78 | 16.29 | 15.77 | 15.71 | 16.08 | 16.36 | 16.60 | 16.43 |
| 高雄市 | 7.78 | 8.52 | 9.25 | 9.31 | 9.91 | 10.39 | 10.59 | 10.55 |

出所: 内政部



7) 雇用動向

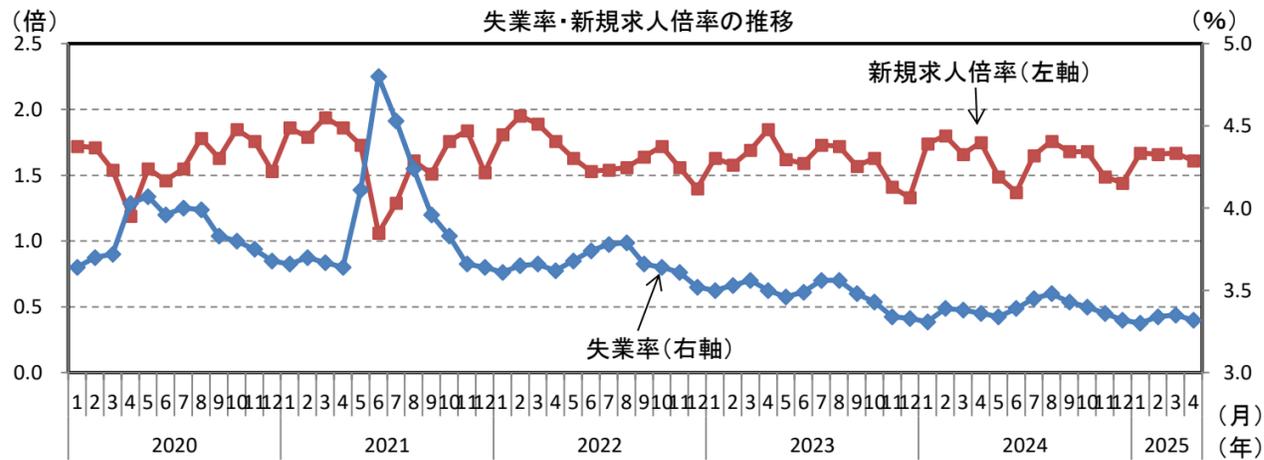
『実質経常賃金は43,727円で前年同月比1.16%となり、13か月連続のプラス成長』

5月の失業率は、前月比▲0.02%pt減の3.30%、新規求人倍率は、1.55倍と先月から減少となった。
 5月の雇用者数は、前月比+0.05%増の6,000人増加、前年比では+0.27%の31,000人増となり、雇用者数合計は、1,161.1万人となった。
 4月の経常賃金は47,807円で前年同月比+3.22%となった。実質経常賃金は43,727円で前年同月比+1.16%となり、13か月連続のプラス成長となった。

| | 2021年 | 2022年 | 2023年 | 2024年 | 2025年2月 | 2025年3月 | 2025年4月 | 2025年5月 |
|-----------------|-------|-------|-------|-------|---------|---------|---------|---------|
| 新規求人倍率(倍) | 1.62 | 1.66 | 1.61 | 1.62 | 1.66 | 1.67 | 1.61 | 1.55 |
| 失業率(%) | 3.95 | 3.67 | 3.48 | 3.38 | 3.34 | 3.35 | 3.32 | 3.30 |
| 経常賃金(前年同期比、%) | 1.81 | 2.71 | 2.23 | 2.77 | 3.04 | 3.17 | 3.22 | - |
| 実質経常賃金(前年同期比、%) | ▲0.16 | ▲0.24 | ▲0.25 | 0.58 | 1.39 | 0.82 | 1.16 | - |

注: 失業率は季節調整前。経常賃金及び実質経常賃金は外国籍、パートタイム労働者を含む。

出所: 行政院主計処、労働部



8) 企業等の設立・倒産

2025年1月～5月の企業新設は17,836件(前年同期比▲9.76%)、工場新設は2,196件(同+16.87%)。
 2025年1月～5月の企業倒産は10,482件(前年同期比+10.16%)、工場閉鎖は1,411件(同▲2.49%)。

| (%、前年同期比) | 2019年 | 2020年 | 2021年 | 2022年 | 2023年 | 2024年 | 2025年1月～5月 |
|-----------|-------|-------|-------|-------|-------|-------|------------|
| 企業新設件数 | ▲3.2 | 9.9 | 3.1 | ▲2.7 | ▲1.4 | 3.0 | ▲9.76 |
| 工場新設件数 | ▲6.7 | 147.3 | ▲54.9 | ▲13.8 | ▲0.7 | 21.0 | 16.87 |
| 企業倒産件数 | 28.5 | ▲22.4 | ▲1.3 | 1.2 | ▲16.2 | 2.2 | 10.16 |
| 工場閉鎖件数 | ▲2.0 | ▲15.1 | ▲5.0 | 5.9 | ▲3.9 | 33.9 | ▲2.49 |

出所: 經濟部

9) 輸出入

『2025年5月の貿易、輸出は前年同月比+38.6%、輸入は+25.0%』

① 輸出入総額及び貿易収支

2025年1～5月の輸出は前年同期比+24.3%の2,299.6億ドル、輸入は+21.4%の1,865.1億ドルとなった。5月単月では、輸出は+38.6%の517.4億ドル、輸入は+25.0%の391.3億ドルであった。

1～5月の輸出を国・地域別で見ると、中国大陸向けは▲1.0%、その他の主要な輸出地域向けでは、香港は+39.3%、米国+43.1%、シンガポール+14.6%、日本+9.4%であった。また、メキシコが+230.4%と急増した。輸出を主要品目別に見ると、シェアの約4割を占める電子部品は+20.2%、情報通信機器が+59.0%となった。

1～5月の輸入は、電子部品および情報通信機器関連の需要および半導体関連設備購入が牽引し、+21.4%となった。主要品目別に見ると、約30%のシェアを占める電子部品は+39.6%、情報通信機器は+112.3%、機械は+46.0%となった。

財政部は今後の見通しについて、各国政府および国際的なクラウドサービス事業者がAI関連投資を積極的に拡大しており、台湾域内の半導体事業者も先端プロセスの研究開発と生産能力の増強を行っていることなどが、今後も輸出の牽引役となるだろうとした。一方で、米国の関税政策や地政学的な要素等の不確実性が高まりについては、引き続き今後の状況を注意深く見守る必要がある、とした。

| (単位: 億ドル) | 2021年 | 2022年 | 2023年 | 2024年 | 2025年3月 | 2025年4月 | 2025年5月 | 2025年1-5月 |
|-----------|---------|---------|---------|---------|---------|---------|---------|-----------|
| 輸出 | 4,464.5 | 4,795.2 | 4,324.8 | 4,750.7 | 495.7 | 486.6 | 517.4 | 2,299.6 |
| 前年比 | 29.4% | 7.4% | ▲9.8% | 9.9% | 18.6% | 29.9% | 38.6% | 24.3% |
| うち対中国 | 1259.3 | 1211.4 | 957.3 | 969.8 | 81.0 | 77.2 | 82.7 | 376.2 |
| 前年比 | 22.9% | ▲3.8% | ▲20.9% | 1.3% | 1.5% | 2.3% | 2.7% | ▲1.0% |
| うち対日本 | 292.1 | 336.2 | 314.4 | 258.4 | 25.5 | 21.9 | 23.3 | 113.4 |
| 前年比 | 24.8% | 15.1% | ▲6.5% | ▲17.8% | ▲4.0% | 13.3% | 17.5% | 9.4% |
| 輸入 | 3,811.7 | 4,276.0 | 3,519.2 | 3,944.7 | 426.2 | 414.6 | 391.3 | 1,865.1 |
| 前年比 | 33.2% | 11.9% | ▲17.8% | 12.2% | 28.8% | 33.0% | 25.0% | 21.4% |
| うち中国から | 824.6 | 839.8 | 702.2 | 793.0 | 76.9 | 75.0 | 73.6 | 344.6 |
| 前年比 | 29.7% | 1.8% | ▲16.4% | 12.9% | 19.8% | 17.6% | 14.0% | 13.7% |
| うち日本から | 561.5 | 546.0 | 443.2 | 464.7 | 52.6 | 45.9 | 41.3 | 215.5 |
| 前年比 | 22.3% | ▲2.7% | ▲18.9% | 4.8% | 33.4% | 18.2% | 17.4% | 19.3% |
| 貿易収支 | 652.8 | 519.2 | 805.6 | 806.1 | 69.5 | 72.1 | 126.2 | 434.5 |
| 前年比 | 10.7% | ▲19.4% | 56.9% | ▲0.2% | ▲20.1% | 15.0% | 109.2% | 38.3% |

出所: 財政部統計処

②2025年1-5月の主な地域別輸出入動向

| (単位:億ドル) | 輸出 | | | 輸入 | | | 貿易収支 | |
|----------------|--------|--------|--------|---------|--------|--------|--------|--------|
| | 金額 | シェア | 前年同期比 | 金額 | シェア | 前年同期比 | 金額 | 前年同期比 |
| 全体 | 2299.6 | 100.0% | 24.3% | 1,865.1 | 100.0% | 21.4% | 434.5 | 38.3% |
| 米国 | 616.3 | 26.8% | 43.1% | 197.8 | 10.6% | ▲10.5% | 418.5 | 99.7% |
| 中国 | 376.2 | 16.4% | ▲1.0% | 344.6 | 18.5% | 13.7% | 31.7 | ▲58.8% |
| 香港 | 269.9 | 11.7% | 39.3% | 5.3 | 0.3% | ▲7.6% | 264.7 | 40.7% |
| シンガポール | 153.4 | 6.7% | 14.6% | 50.6 | 2.7% | 35.1% | 102.8 | 6.6% |
| マレーシア | 150.8 | 6.6% | 102.1% | 67.6 | 3.6% | 21.0% | 83.2 | 344.5% |
| 日本 | 113.4 | 4.9% | 9.4% | 215.5 | 11.6% | 19.3% | ▲102.1 | 32.6% |
| 韓国 | 94.6 | 4.1% | 24.4% | 223.5 | 12.0% | 62.5% | ▲128.9 | 109.5% |
| メキシコ | 81.7 | 3.6% | 230.4% | 17.9 | 1.0% | 197.8% | 63.8 | 240.8% |
| ベトナム | 69.2 | 3.0% | 22.5% | 46.6 | 2.5% | 50.1% | 22.6 | ▲11.1% |
| タイ | 58.7 | 2.6% | 5.7% | 26.3 | 1.4% | ▲1.1% | 32.4 | 12.0% |
| 新南向政策対象18カ国(※) | 535.6 | 23.3% | 28.2% | | | | | |

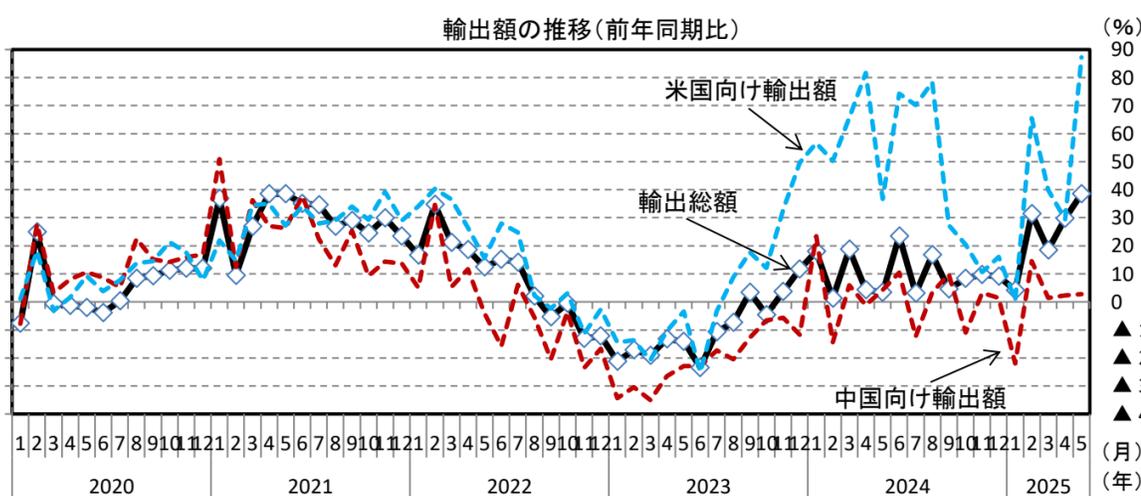
(※)ASEAN10、インド、バングラディッシュ、パキスタン、スリランカ、ネパール、ブータン、オーストラリア、ニュージーランド

出所: 財政部統計処

③電子製品の輸出入の動向

| | 2021年 | 2022年 | 2023年 | 2024年 | 2025年3月 | 2025年4月 | 2025年5月 | 2025年1-5月 |
|----------------|-------|-------|--------|-------|---------|---------|---------|-----------|
| 輸出のうち、電子製品のシェア | 38.5 | 41.7 | 41.3 | 37.3 | 35.4 | 33.7 | 33.3 | 34.6 |
| 輸出金額前年同期比 | 26.9% | 16.4% | ▲10.7% | ▲0.8% | 19.3% | 26.8% | 28.4% | 20.2% |
| 輸入のうち、電子製品のシェア | 24 | 23.0 | 23.1 | 26.5 | 27.5 | 25.1 | 29.8 | 28.3 |
| 輸入金額前年同期比 | 31.3% | 7.8% | ▲17.3% | 28.3% | 50.1% | 31.6% | 51.7% | 39.6% |

出所: 財政部統計処



10) 対内外直接投資

『2025年1-5月の対内直接投資は前年同期比+78.8%、対外直接投資は+7.1%』

①総額

2025年1-5月の対内直接投資額は前年同期比+77.8%の55.8億ドルとなった。国・地域別で見ると、デンマークからの投資が21.0億ドルとシェア37.6%を占め最も多い。次いでルクセンブルクが7.1億ドル、英領中米が6.4億ドルとなった。

対内投資の大型案件としては、デンマークのORSTED WIND POWER TW HOLDINGS A/Sが600億元で大彰化西南控股を設立し投資業務を行うほか、韓国のLINE FINANCIAL CORPORATIONによる台湾連線金融科技への27.5億元の増資、日本のJR東日本によるメトロポリタンホテルへの16.8億の増資などがあつた。

2025年1-5月の対外直接投資額は前年同期比+7.1%の156.8億ドルとなった。国・地域別では、1位は英領中米の104.7億ドルでシェア66.8%を占めた。次いで米国11.0億ドル(シェア7.0%)、オランダ8.5億ドル(同5.4%)となった。

対外投資の大型案件としては、環球晶が約4億ドルでオランダのGLOBALWAFERS B.V.を經由して米国のGLOBALWAFERS AMERICA,LLCへ増資、神雲科技による英領ケイマンの子会社MEGA PROSPER GROUP LIMITEDに対する2億ドルの増資などがあつた。

| (単位:金額は億ドル) | 2021年 | 2022年 | 2023年 | 2024年 | 2025年3月 | 2025年4月 | 2025年5月 | 2025年1-5月 |
|-------------|------------|--------|--------|---------|----------|---------|---------|-----------|
| 対内直接投資 | 金額 75.9 | 133.4 | 112.8 | 81.6 | 5.7 | 5.8 | 26.5 | 55.8 |
| | 前年比 ▲18.1% | 75.7% | ▲15.4% | ▲27.7% | 203.5% | 0.6% | 88.1% | 78.8% |
| うち日本から | 金額 7.3 | 17.0 | 6.2 | 4.5 | 0.2 | 0.9 | 0.9 | 2.6 |
| | 前年比 ▲24.4% | 133.2% | ▲63.5% | ▲27.1% | ▲10.6% | 146.8% | 125.9% | 58.6% |
| うち中国から | 金額 1.2 | 0.4 | 0.3 | 3.0 | 0.0 | 0.0 | 0.0 | 1.0 |
| | 前年比 ▲8.0% | ▲66.7% | ▲23.3% | 901.4% | ▲97.3% | ▲100.0% | ▲96.7% | 515.9% |
| 対外直接投資 | 金額 184.6 | 150.1 | 266.1 | 485.9 | 111.9 | 13.4 | 17.7 | 156.8 |
| | 前年比 4.2% | ▲18.7% | 77.3% | 82.6% | 43.3% | 87.9% | 13.2% | 7.1% |
| うち対日本 | 金額 22.2 | 0.7 | 2.1 | 54.9 | 1.9 | 5.0 | 0.6 | 7.9 |
| | 前年比 470.6% | ▲96.7% | 193.1% | 2455.9% | 57384.9% | 6203.6% | 615.9% | 2567.3% |
| うち対中国 | 金額 58.6 | 50.5 | 30.4 | 36.5 | 1.2 | 0.9 | 0.3 | 4.6 |
| | 前年比 ▲0.7% | ▲13.9% | ▲39.8% | 20.3% | ▲65.3% | ▲42.6% | ▲86.3% | ▲63.9% |

②2025年1-5月(累計)の主な地域別投資動向

| (億ドル) | 対内投資 | | |
|---------|------|--------|----------|
| | 金額 | シェア | 前年同期比 |
| 全体 | 55.8 | 100.0% | 78.8% |
| デンマーク | 21.0 | 37.6% | 23060.4% |
| ルクセンブルグ | 7.1 | 12.8% | 527.9% |
| 英領中米 | 6.4 | 11.5% | 71.0% |
| 韓国 | 3.1 | 5.5% | 1754.6% |
| イギリス | 3.0 | 5.4% | ▲77.6% |
| シンガポール | 3.0 | 5.3% | 326.8% |
| 日本 | 2.6 | 4.6% | 58.6% |
| カナダ | 1.9 | 3.5% | 289.2% |
| 米国 | 1.9 | 3.4% | ▲64.1% |
| オランダ | 0.9 | 1.5% | 337.5% |

| (億ドル) | 対外投資 | | |
|-------|-------|--------|---------|
| | 金額 | シェア | 前年同期比 |
| 全体 | 156.8 | 100.0% | 7.1% |
| 英領中米 | 104.7 | 66.8% | 217.3% |
| 米国 | 11.0 | 7.0% | 130.1% |
| オランダ | 8.5 | 5.4% | 2033.1% |
| 日本 | 7.9 | 5.0% | 2567.3% |
| 中国 | 4.6 | 2.9% | ▲63.9% |
| タイ | 4.3 | 2.8% | 68.4% |
| マレーシア | 4.2 | 2.7% | 362.2% |
| ベトナム | 3.4 | 2.1% | ▲54.5% |
| フィリピン | 1.9 | 1.2% | 267.6% |
| 香港 | 1.0 | 0.6% | ▲68.5% |
| 新南向 | 15.7 | 10.0% | ▲62.9% |

11) 国際収支

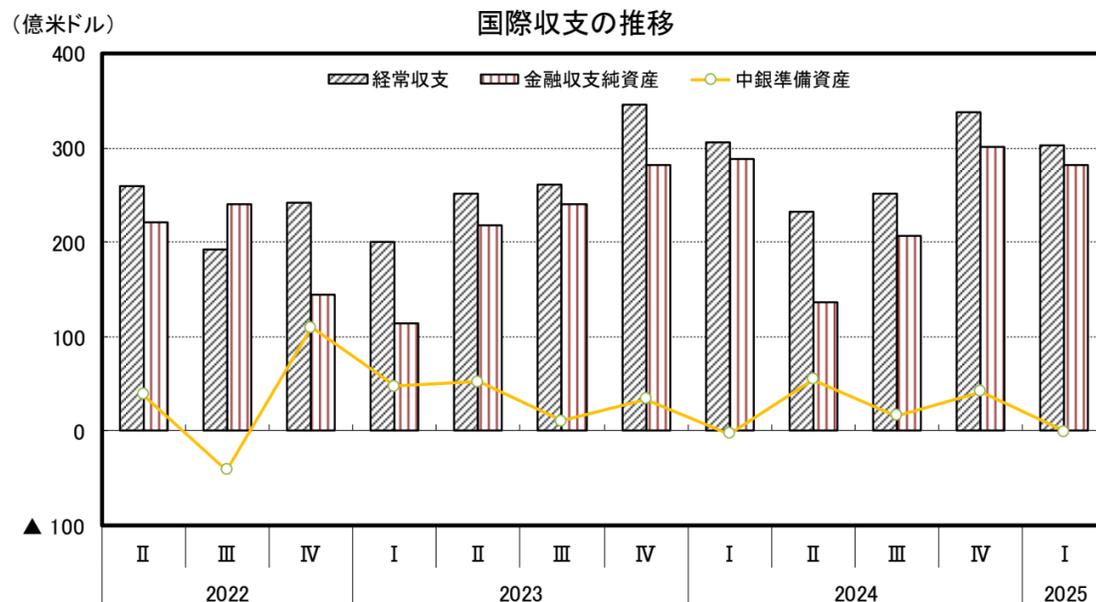
『2025年第1四半期の経常収支は302.3億ドルの黒字、うち貿易収支は前年同期比+27.0億ドル増の272.3億ドルの黒字』

2025年第1四半期の国際収支は、経常収支が302.3億米ドルの黒字、金融収支が282.3億米ドルの純資産の増加、中央銀行準備資産が0.9億米ドルの減少となった。
 経常収支のうち貿易収支は、新興技術に対する需要や海外企業による在庫需要の前倒しにより前年同期比+27.0億米ドルの272.3億米ドルの黒字となった。サービス収支は旅行支出の増加により赤字幅が前年同期比▲7.3億ドル拡大し、▲29.8億米ドルの赤字となった。第一次所得収支(投資に伴う所得収支)は、対外直接投資からの収入減により前年同期比▲25.0億米ドル減の69.5億米ドルの黒字となった。

| (億米ドル) | 2021年 | 2022年 | 2023年 | 2024年 | 2024年2Q | 2024年3Q | 2024年4Q | 2025年1Q |
|--------|--------|--------|--------|--------|---------|---------|---------|---------|
| 経常収支 | 1182.6 | 1014.5 | 1058.5 | 1126.3 | 231.4 | 251.9 | 337.8 | 302.3 |
| うち貿易収支 | 879.6 | 687.0 | 956.2 | 994.2 | 211.4 | 280.8 | 256.6 | 272.3 |
| 金融収支 | 1063.3 | 937.2 | 853.3 | 931.2 | 135.8 | 206.4 | 300.2 | 282.3 |

出所: 中央銀行

※金融収支はプラス(正)は純資産の増加を表し、マイナス(負)は純資産の減少を示す。



12) 外貨準備高

『運用収益や対米ドルレートの変動、為替介入の影響により、+101.2億ドル増の5,929.5億米ドル』

5月末の外貨準備高は、前月比+101.2億米ドル増の5,929.5億米ドルとなった。変動の要因について、中央銀行は、運用収益の影響、主要通貨の対米ドルレートの変動、為替介入を挙げている。
 5月末の海外投資家が保有する証券投資(市場価格)と台湾ドル預金の残高は合計で8,249億米ドル(先月比+1,030億米ドル)、外貨準備の約139%(先月比+15%pt)となった。

| (億ドル) | 2021年末 | 2022年末 | 2023年末 | 2024年末 | 2025年2月末 | 2025年3月末 | 2025年4月末 | 2025年5月末 |
|-------|--------|--------|--------|--------|----------|----------|----------|----------|
| 外貨準備高 | 5,484 | 5,549 | 5,706 | 5,767 | 5,775.8 | 5,780.2 | 5,828.3 | 5,929.5 |

出所: 中央銀行

13) 為替・株式相場

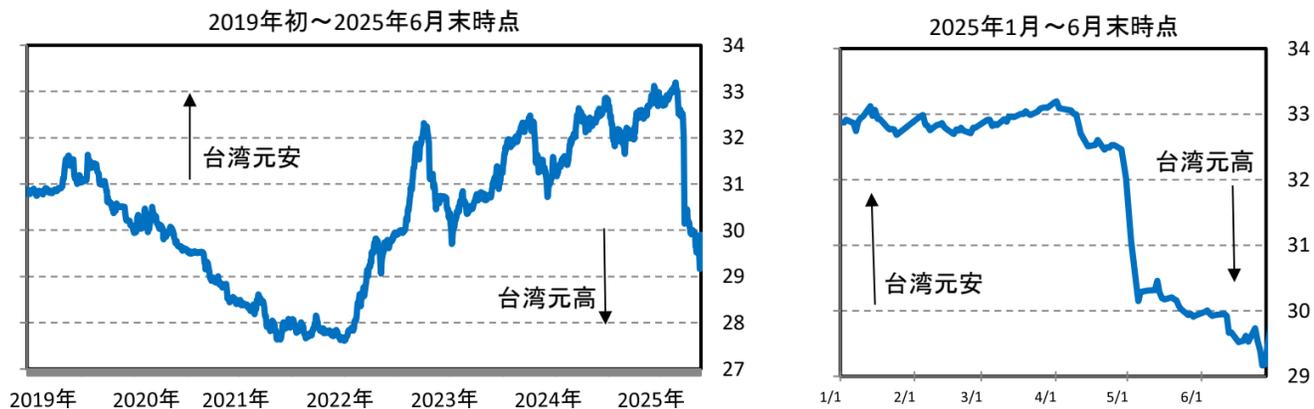
『5月以降の元高ドル安傾向が継続。株価は4月の米国相互関税公表による急落から回復傾向』

対米ドル・台湾元相場の6月末時点の終値は、1米ドル=29.04台湾元となり、元高ドル安傾向が継続。
 5月末時点の株価(台湾加権指数)終値は22,256.02ポイントで、前月末から+908.72ポイント(+4.26%)の上昇。

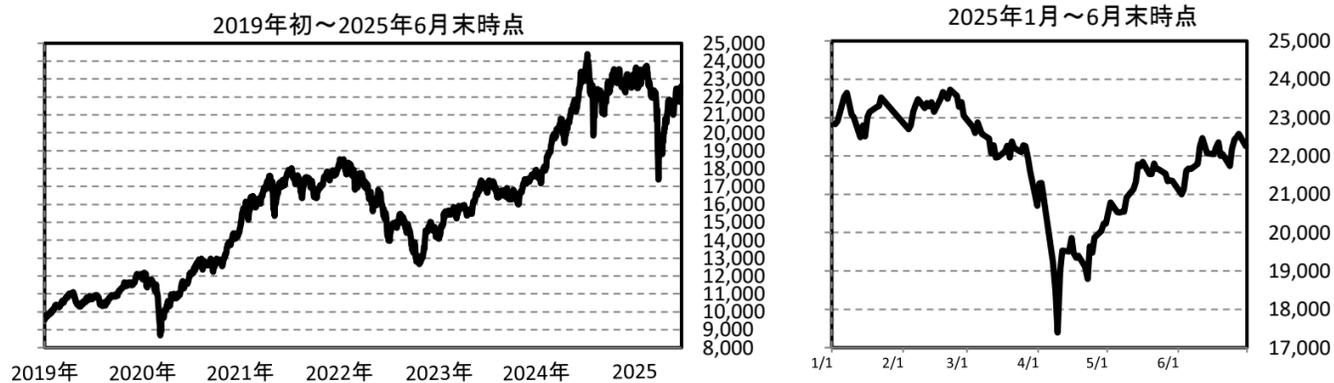
| (単位: 元、ポイント) | 2021年 | 2022年 | 2023年 | 2024年 | 2025年3月 | 2025年4月 | 2025年5月 | 2025年6月 |
|---------------|-----------|-----------|-----------|-----------|-----------|-----------|-----------|-----------|
| 1米ドル(期末TTB) = | 27.69 | 30.70 | 30.80 | 32.72 | 33.06 | 31.89 | 29.86 | 29.04 |
| 1円(期末TTB) = | 0.2383 | 0.2299 | 0.2194 | 0.2075 | 0.2176 | 0.2221 | 0.2029 | 0.1987 |
| 株価指数(期末終値) | 18,218.84 | 14,137.69 | 17,930.81 | 23,035.10 | 20,695.90 | 20,235.03 | 21,347.30 | 22,256.02 |

出所: 対ドル相場及び対円相場: みずほ銀行、株価指数: 台湾証券取引所

【対米ドル・台湾元相場の推移】(単位:台湾元/米ドル)



【株価指数(台湾加権指数)の推移】(単位:ポイント)



14) その他金融動向

『貸出及び投資の年増加率の低下によりマネーサプライ(M2)の伸び幅が縮小』

| (単位: %) | 2021年 | 2022年 | 2023年 | 2024年 | 2025年2月 | 2025年3月 | 2025年4月 | 2025年5月 |
|--------------------|-------|-------|-------|-------|---------|---------|---------|---------|
| マネーサプライ(M1B、対前年比) | 16.29 | 7.81 | 2.82 | 4.61 | 3.10 | 1.82 | 1.85 | 1.97 |
| マネーサプライ(M2、対前年比) | 8.72 | 7.48 | 6.25 | 5.83 | 5.19 | 4.38 | 3.88 | 3.33 |
| 銀行間短期金利(コールレート、年末) | 0.081 | 0.263 | 0.657 | 0.820 | 0.820 | 0.821 | 0.818 | 0.820 |
| 不良債権比率(全体) | 0.17 | 0.14 | 0.14 | 0.14 | 0.16 | 0.15 | - | - |
| うち本国銀行 | 0.17 | 0.15 | 0.14 | 0.15 | 0.16 | 0.16 | - | - |
| うち外銀台湾支店 | 0.03 | - | - | 0.00 | 0.00 | 0.00 | - | - |
| 不渡り手形 件数比率 | 0.07 | 0.07 | 0.07 | - | 0.07 | 0.08 | 0.10 | 0.09 |
| 同 金額比率 | 0.26 | 0.25 | 0.27 | - | 0.23 | 0.30 | 0.30 | 0.29 |

出所: 中央銀行、金融監督管理委員会

(注) M1B=現金通貨+普通預金、M2=M1B+定期性預金等の準貨幣。

(注) 不良債権の定義は、3ヶ月以上延滞債権。時点は各期末。

15) 人的往来

『日台間の人的交流は拡大基調が継続』

2025年3月の全世界からの訪台旅行者は前年同期比-4.1%の77.9万人。目的別では、観光54.5万人、業務5.7万人、国別では、中国から前年同期比+59.9%の4.8万人、日本から前年同期比+1.9%の15.5万人となった。また台湾からの訪日旅行者は前年同期比+7.9%の52.3万人であった。日台間の交流人口は67.8万人で、前年を上回った。

| (単位: 人数回、%) | 2021年 | 2022年 | 2023年 | 2024年 | 2024年12月 | 2025年1月 | 2025年2月 | 2025年3月 |
|-------------|--------|---------|---------|-------|----------|---------|---------|---------|
| 訪台旅行者 | 14.0 | 89.6 | 648.7 | 785.8 | 90.4 | 65.1 | 69.9 | 77.9 |
| 前年比 | ▲89.8% | 537.8% | 624.0% | 21.1% | 10.9% | 10.4% | 7.8% | ▲4.1% |
| うち訪台中国人 | 1.3 | 2.4 | 22.6 | 43.8 | 6.1 | 6.1 | 4.5 | 4.8 |
| 前年比 | ▲88.1% | 83.8% | 828.2% | 93.7% | 87.1% | 99.3% | 20.5% | 59.9% |
| うち訪台日本人 | 1.0 | 8.8 | 92.8 | 131.2 | 15.3 | 9.0 | 12.0 | 15.5 |
| 前年比 | ▲96.3% | 771.3% | 959.4% | 42.2% | 24.3% | ▲6.3% | 18.7% | 1.9% |
| 訪日台湾人 | 0.5 | 33.1 | 420.2 | 604.4 | 49.1 | 59.3 | 50.7 | 52.3 |
| 前年比 | ▲99.3% | 6500.9% | 1169.2% | 23.6% | 23.0% | 20.5% | 1.0% | 7.9% |

出所: 訪台旅行者: 交通部、訪日台湾人: 日本政府観光局(JNTO)

(参考) 在留外国人

| | 2021年 | 2022年 | 2023年 | 2024年 | 2025年2月 | 2025年3月 | 2025年4月 | 2025年5月 |
|-------------|---------|---------|---------|---------|---------|---------|---------|---------|
| 台湾の在留外国人数 | 752,900 | 796,696 | 851,932 | 948,066 | 963,754 | 961,591 | 976,682 | 981,805 |
| うち台湾の在留邦人数 | 15,316 | 15,059 | 14,136 | 13,494 | 15,827 | 14,869 | 15,631 | 15,160 |
| うち台北市の在留邦人数 | 6,849 | 6,399 | 5,951 | 5,643 | 6,981 | 6,338 | 6,866 | 6,556 |

出所: 内政部移民署

「免責事項」

本資料に掲載されている内容は、公益財団法人日本台湾交流協会の公式見解を示すものではありません。

万が一、資料に基づく情報で不利益等の問題が生じた場合、公益財団法人日本台湾交流協会は一切の責任を負いかねますのでご了承ください。